

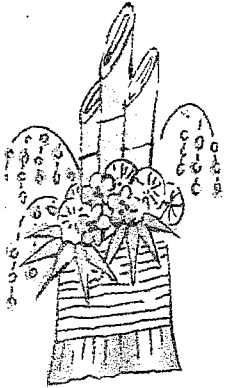
大学図書館問題研究会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

京都橘女子大学図書館 田北十生気付

(Tel) 075-574-4118

(Fax) 075-574-4124



本をよんで おどろかす 時代です

これから始まる21世紀という新時代に生きる私たちの、新世紀は何を問いかけてくるのでしょうか？

その答えを捜すのも、また私たち自身であると思えます。

大学図書館が、今抱えているたくさんの深刻な問題は、私たちに新しい時代の到来を告げているように思われます。

何時も時代が、厳しい課題を問いかけているときは、それは、これまでと違った新しいものを生み出していくことを時代が要求しているときではないかと考えます。

では、大学図書館は、このような新しい姿を問われているのでしょうか？

それを私たち自身で探るために、今年「ネットワーク環境下における情報サービス」という統一テーマで4月から毎月連続5回のセミナーを実施することを支部委員会と決め、今その準備に取り組んでいます。

会員みなさんが積極的に参加してくださいませようお願いします。

【お知らせ】

大図研京都支部セミナー

「ネットワーク環境下における情報サービス」の発表者募集中！

詳しくは、本号5ページに掲載！
会員のみなさんの日頃の研究・考えていることを発表する絶好のチャンスです。必るって応募しましょう！

目次	新年のごあいさつ.....1頁
	お知らせ.....1頁
	「ネットワーク環境下における情報サービス（仮）」開催にあたって-2頁
	セミナーの発表者募集中！.....4頁
ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで 編集気付 (dkamr302@kyoto.zaq.ne.jp) 田北まで	

「ネットワーク環境下における図書館サービス(仮)」 開催にあたって



大 綱 浩 一

1. はじめに

京都支部では本年4月より、標記テーマによる連続5回のセミナーを予定しています。そこで今回は、ネットワーク環境下における図書館の変容について、その要因と課題をまとめてみました。

なお、本文は整理ノートにすぎないため、特に引用部分を明示してありません。参照・参考しました文献につきましては、まとめて最後に挙げてあります。

また以下に、まとめにあたっての私の基礎見解、文中での用語の使用法を示しておきます。

「図書館」とは、情報環境への窓口(インタフェース)のひとつである。残念ながら現在のところ、すべてではない。

「図書館の使命」とは、利用者が必要とするあらゆる資料を提供することである。

「電子図書館」とは、ネットワークを介した図書館サービスのための手段・道具のひとつである。

「ネットワーク」は、コンピュータ ネットワークの意である。

「ネットワーク系メディア」とは、インターネットを基盤とするネットワーク環境で、コンピュータ ネットワークを介して情報を伝達する仕組みのことである。

2. 変容の要因

ここでは、現在、進行しつつある図書館の変容の要因として、次の3つを取り上げる。

(a) コンピュータ技術・通信技術の進展

(b) 情報基盤の整備

(b-1) 物理的基盤(回線)

(b-2) 論理的基盤(通信に関する約束事)

(b-3) サービス

(c) メディアの変容

(a) コンピュータ技術・通信技術の進展

要因の根幹は、技術の進展にある。確かに技術の進展はそれを望む発想に基づき、発想は技術の進展により方向付けを受けるため、両者に後先を付けることは困難である。そのため、発想も要因の根幹をなしている、といえなくはないが、今ある現在を直接的に具現化しているのは、やはり技術の進展であるといえる。

(b) 情報基盤の整備

基盤の整備は、3つの段階に分けられる。

1. 実際に電気信号が流れる回線を敷設し、

2. 電気信号をやり取りするための約束事を決める。

3. その上でサービスが提供される。サービスを基盤として位置づけている点を奇異に感じられるかもしれない。

次のような場合を考えてみてください。

1. 道路を造り、

2. 交通法規を定め、

3. 運送トラックが走る。

確かにこの関係の中で、運送トラックはサービスに当たります。

しかし、コンビニエンスストアなどからみれば、運送トラックは基盤といえるでしょう。同じようなことが、特に図書館ではいえるのではないのでしょうか。

(c) メディアの変容

情報基盤は、それ自体が新種のメディアである。「印刷メディア」と「ネットワーク系メディア」、両者の違いには2つの要素がある。1つ目は、前者が「印刷メディア」であり、後者が「電子メディア」である点。2つ目は、前者が「パッケージ系メディア」であり、後者が「ネットワーク系メディア」である点。それぞれの要素が要因となり、図書館に変容を迫ってきているのだが、とりわけ2つ目の要素が大きな課題をもたらしていると考えられる。

結局のところ、現在、図書館がそのただ中にある変容とは、直接的にはメディアの変容(ネットワーク化)に対する対応過程であるといえる。

3. 変容の課題

ここでは現在、進行しつつある図書館の変容の課題として、次の3つを取り上げる。

- (a)「所蔵」から「アクセス」へ
- (b)「開いた世界」への図書館機能の適用
- (c)トータル インタフェースとしての図書館

**(a)「所蔵」から「アクセス」へ**

ネットワーク系メディアの特性として、地理的距離は意味をなさない。そのため、どこか1箇所があれば、複数箇所でも重複しておく必要はなく、また、そのどこか一箇所は、分散していてもかまわない。「パッケージ系メディア」に比べ、「ネットワーク系メディア」が図書館に与える最大のインパクトは、所蔵を概念し得ないことにある。

そもそも所蔵とは、利用者に資料へのアクセスを保障するための一手段にすぎない。それが、たまたま今までは不可欠であったがために絶対視されてきたが、信頼し得る第三者によって資料への永続的なアクセスが保障されるのであれば、必ずしも個々の図書館による所蔵を必要としない。ここに、「所蔵」から「アクセス」へというパラダイムシフトが予想される。

(b)「開いた世界」への図書館機能の適用

ネットワーク系メディアの代表例である、商業オンラインジャーナルや商業オンラインデータベースもまた、必ずしも図書館毎にそのものを「所蔵」することなく、利用することができる。

しかしながら、それらを利用するためには「契約」を結ぶ必要があり、また、それらは蔵書と同じように、「閉じた世界」となっている。

一方、もう1つの代表例である、Web(商業サイトを除く)の場合もまた、「所蔵」することなく、利用することができる(Webもまた、情報環境への窓口である図書館にとっては、当然提供すべき資料の1つであると考えられる)。しかしながら、こちらは利用に際し「契約」を結ぶ必要はなく、また、蔵書と違い、「開いた世界」となっている。

それでは、この「開いた世界」に対しては、図書館による資料の選択を概念し得ないのであるか。自然状態では、Web上のあらゆるものに、同じようにアクセスが可能である(アクセスのしやすさ・しにくさに差がない)。しかしながら、図書館にはアクセスの制限やしやすさが求められている。これは、Webへの図書館による資料の選択という機能の適用ではないだろうか。

また、「開いた世界」に対しては、図書館による資料の組織化を概念し得ないのであるか。確かに利用に際し、図書館による収集が必要のないWebの場合、図書館による組織化が希薄になっている。

しかしながら、図書館による収集が必要ないことと、図書館による組織化が必要ないことは、同義ではない。図書館にはその使命に即した、独自の組織化・検索機能が求められている。それは知の組織化であると思われる。

(c)トータル インタフェースとしての図書館

「ネットワーク系メディア」と「印刷メディア」はあまりにも違いすぎて、現在のところ、同じようには提供できない。たとえば、Webを本と同じように配架することはできないし、回線を通して雑誌を伝送することはできない。そのため、「ネットワーク系メディア」と「印刷メディア」は乖離してしまっている。確かに「印刷メディア」の場

合、ネットワークを介して提供するには、物としての制約がついて回る。ということは、物としての制約が解消されれば、ネットワークを介しての提供も可能になる。インタフェースには、このような多様なメディアの違いを吸収する機能が求められる。

「印刷メディア」の物としての制約問題を解消する方法としては、物流体制の整備と資料の電子化が考えられる。本を読むようにして、ディスプレイを読むことが受け入れられるのであれ、将来的には後者に力点が置かれることになるであろう。

また、メディアの差異のほかにも吸収されるべき乖離がある。たとえば、あるテーマに関する論文を入手しようとする際、まずはじめに索引・抄録誌を引き、次に収録雑誌の所蔵目録を調べ、ようやく入手することができる。この入手に至るまでの各段階内・各段階間の乖離である。

これは以前からそうであり、「ネットワーク系メディア」の出現による乖離ではなく、解消の可能性である。このようなつなぎ目の吸収にこそ、インタフェースとしての存在意義が問われる。

A HAPPY NEW YEAR

4. まとめ

本文では、ネットワーク系メディアの特性からの課題を中心にまとめてきました。ネットワークを介してサービスを提供するためには、ほかにもアカウントの管理が課題になると思われます。また、今回はあまり触れることができませんでした。出版流通制度や著作権制度などの社会制度の変容も、図書館やそのサービスの在り様に課題を迫るものと思われま

す。ネットワークを介しての図書館サービスは、現時点では、多様な環境下における図書館サービスの一形態にすぎず、従来からの図書館サービスと補完的な関係にあるものと考えられます。しかしながら、今後のメディアの版図の如何によっては、図書館サービスの中心になることも考えられます。

そうなるにつれて図書館は将来、限りなくデータベースに近づき、図書館員は限りなくシステム化されるであろうと私は考えています(その上での、場としての図書館、セラピストとしての図書館員もあり得るかもしれませんが)。それは、ネットワーク系メディアの特性のほかに、次のような考えに基づくものであります。

私は別にランカスターの信奉者ではありませんが、現在、図書館と呼ばれている制度や組織、形態、呼称が消滅することもあり得るだろうと考えています。社会にとって必要なのは、図書館が果たしている機能であり、それが実現されるのであれば、図書館が消滅しても一向に差し支えないでしょう。

今後も引き続き存在でき得るかは、ひとえに、情報環境への窓口(インタフェース)として、付加価値の生産ができ得るかにかかっていると思います。もし付加価値を生産できないのであれば、消滅するしかないでしょう。

(おおつな こういち 京都大学附属図書館)

【参照・参考文献】

- 原田勝. 未来の図書館：情報社会における知識と情報の流通. 松籟社, 1987.
 特殊：電子図書館とマルチメディア・ネットワーク. 葉学図書館. Vol.41, No.2, p.83-176 (1996)
 海野敏ほか. 学術情報と図書館. 雄山閣, 1999. (講座 図書館の理論と実際, 9)
 原田勝, 田屋裕之編. 電子図書館. 勁草書房, 1999.
 特集：電子図書館. 情報の科学と技術. Vol.49, No.6, p.263-300 (1999)

大図研京都支部セミナー

「ネットワーク環境下における情報サービス」の発表者募集!

1人あたり、発表時間は30分、質疑応答は20分で構成されます。

意欲ある方は奮って応募して下さい。

応募の締切日は2月28日とさせていただきます。

応募先は

井上雅人まで

立命館大学総合情報センター情報管理課
 〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel:075-465-8222 Fax:075-465-8252

E-mail:ino-mst@st.ritsumei.ac.jp

